

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成30年度第1四半期（平成30年4月～6月）

1. 治安情勢

- 4月20日、グジャラート州ATS（テロ対策局）は、昨年ムンバイやアーメダバードでのテロを計画していたとして逮捕した二人を同容疑で起訴した。二人はISILの思想に感化され、ジャマイカの過激派宣教師とSNSで接触していた。二人はISILへの参加の支援を同宣教師に依頼したが、「まずはインドで何かしら成し遂げてからだ」と言われ、ムンバイやアーメダバードにあるユダヤ教礼拝所を攻撃することを計画していた。
- 5月23日、ゴア州アンジュナ警察は、違法に売春宿を経営していた疑いでロシア人二人を逮捕した。警察は、「外国人が高級住宅街で売春宿を経営している」との情報を得て、客を装い現場に踏み込み被疑者らを発見した。
- 6月11日、ゴア州においてインド収入情報局(DRI)は、工場で違法に製造されたいわゆるパーティドラッグであるケタミン10キログラム(末端価格約5000万ルピー)を押収した。同工場は元々は製鉄工場として操業の許可を得ていたが、違法にケタミンを製造していた。
- 6月8日、オーランガバードはチャンドガオン村において、SNSワッツアップで「村に強盗が侵入したらしい」との噂が広まり、強盗に間違えられて村人に襲撃され男性2人が死亡、7人が重傷を負う事件が発生した。今年に入り、このワッツアップで拡散する噂によりリンチされ殺害されるケースがインド国内で多発している

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

- ア 殺人
邦人被害の事件は認知していない。
- イ 強盗
邦人被害の事件は認知していない。
- ウ 強姦
邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪発生状況

ムンバイ市警察本部は、2018年1月1日から5月31日までに認知した犯罪件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

- 殺人 63件（前年同時期対比 +5件）
- 強盗 414件（同 +61件）

○ 傷害	2, 222件 (同)	+263件)
○ 恐喝	93件 (同)	+30件)
○ 強姦	359件 (同)	+84件)
○ 窃盗	5,060件 (同)	+165件)
○ チェーン・ スナッチング(※)	52件 (同)	-71件)

(※) 女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

ムンバイ市警察が対策を強化しているチェーン・スナッチングについては、昨年引き続き減少傾向を見せているが、その他の犯罪については、総じて増加傾向にある。

直近で邦人に対する被害はなかったが、本年1月に、ゴア州を旅行中であった29歳の男性が、ビーチ付近でインド人らしき男に声を掛けられ親しくなり、一緒にカフェに行ったところ、そこで提供されたコーヒーを飲んで昏睡し、気がついた時には一緒に入店した男とともに旅券等の貴重品が入った小袋が無くなっていたという被害が発生した。同種の事件は過去にも多数発生している。特に、観光名所ではガイドを名乗る者が外国人に親しげに近づいてきて睡眠薬強盗を働いたり、女性に対して性的暴行を働くケースも散見されることから、見ず知らずの者の誘いには絶対に乗らないことが肝要である。